MIL-STD-461Gに航空宇宙情報レポートSAE AIRが入っている理由

Ken Javor
EMC Compliance

偉大な実践者に敬意を表して～

今月号の別記事「MIL-STD-461G：完全なレビュー」の注にあるように、SAE の航空宇宙情報レポート（AIR）の AIR 6236「EMI 試験機器の社内確認」は、特に MIL-STD-461G をサポートするために書かれている。注目すべきはセクション 4.3.11（測定機器の校正）では、EMI 受信機、スペクトラムアナライザ（以降「スペアナ」）、オシロスコープ、（RS103）電界センサなどが適用範囲から外されたことである。今ではセクション 4.3.11 に「初期校正後、測定アンテナ、電流プローブ、LISN など受動的なデバイスでは、デバイスが修理される場合を除き、正式な校正を追加する必要はない。手順における測定システムのインテグリティチェックは、受動的なデバイスの許容性を決定するのに十分である」と書かれている。AIR 6236 は、EMI 試験施設で一般的に利用できる試験機器だけを使う場合に、そのようなデバイスの適切な動作確認を支援するために書かれたものである。AIR の背景にある考え方は、測定システムのインテグリティチェックで問題がある場合、AIR 6236 測定がトランスデューサに問題があるかどうか示すことである。AIR 6236 は、2015 年 12 月に発行された。また AIR の手順は、必要に応じて、社内で定期的に EMI 試験機器を自己チェックするのに使うことができる。

AIR の著者によるこの概要は、内容および理由を考察し、AIR から外された機器一式の試験手順も掲載されている。

AIR は、EMI 試験施設にある一般的な機器を使用して下記リストにあるデバイスをセルフチェックする方法のガイダンスを提供すると、序文（Introduction）に書かれている。この目的は、こういった